

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

2022年 1月 4日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 藤 洋 作 様

所 属 部 局 文学研究科

職 名 教授

氏 名 ミツヨ・ワダ・マルシアーノ

助 成 の 種 類	令和元年度 ・ 研究活動推進助成			
申請時の科研費 研究 課 題 名	環境映画・映像メディア分析からフクシマ以後の日本文化の変容を読み解く 研究			
上記以外で助成金 を 充 当 した 研 究 内 容	なし			
助成金充当に関 わる共同研究者	なし			
発表学会文献等	(この研究成果を発表した学会・文献等) "The Cultural Turen in Post-3.11 Documentary: Kamanaka Hitomi's Accented Documentary," in David Desser, ed, <i>A Companion to Japanese Cinema</i> (New Jersey: Wiley-Blackwell, 2022); 「動物、子ども、外国人 から学ぶフクシマ」(坪井秀人、シュテフィ・リヒター、マーティン・ロート編)『世界のなかの(ポスト3.11)ーヨー ロッパと日本の対話』新潮社、2019年); "What Animals, Women, Children, and Foreigners Can Tell Us about Fukushima," <i>Journal of Japanese and Korean Cinema</i> , 11:1, 2019, 35-54; 「3.11以後の芸術力」(ミツ ヨ・ワダ・マルシアーノ編)『(ポスト3.11)メディア言説再考』法政大学出版局、2019年)141-176頁			
成 果 の 概 要	研究内容・研究成果・今後の見通しなどについて、簡略に、A4版・和文で作成し、 添付して下さい。(タイトルは「成果の概要／報告者名」)			
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	1,000,000 円		
	使用した助成金額	1,000,000 円		
	返納すべき助成金額	0 円		
	助成金の使途内訳	費 目	金 額	
		消耗品費	173,465	
		国内旅費	426,270	
		外国旅費	243,980	
		図書費	3,411	
その他手数料		7,800		
消耗品費(使用予定)	45,074			
国内旅費(使用予定)	100,000			
当財団の助成に つ い て	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 令和2年度から科研を受けることができました。その前年には全く研究費がなかったこともあり、この時期にお ける京大財団からの助成金は研究を結実する過程で本当に役立ちました。どうもありがとうございます。			

成果の概要

ミツヨ・ワダ・マルシアーノ

研究内容

平成31年4月からの約3年間は、今までの研究内容を文章化し、学術雑誌の記事、論文集、あるいは単著（日本語及び英語）を出版するための所謂執筆・校正・翻訳の期間となった。

平成31年4月～令和2年度末までは、本研究プロジェクト「環境映画・映像メディア分析からフクシマ以後の日本文化の変容を読み解く研究」に関連する単著『NO NUKES: 〈ポスト3.11〉映画の力・アートの力』名古屋大学出版会（2021年）を出版するための執筆活動を行った。

令和3年度～現在は、本研究プロジェクト「環境映画・映像メディア分析からフクシマ以後の日本文化の変容を読み解く研究」に関連する英文単著『*Japanese Filmmakers in the Wake of Fukushima: Perspectives on Nuclear Disasters*』Amsterdam University Press（2022年出版予定）を出版するための翻訳・執筆活動を行った。この英文単著は、2021年2月に出版した『NO NUKES: 〈ポスト3.11〉映画の力・アートの力』の英語翻訳書であり、アムステルダム大学出版とはすでに契約書を交わしている。早ければ2022年末、遅くとも2023年に出版予定。

研究成果

「発表学会文献等」の欄に学術雑誌論文や論文集の中で発表された論文に関してはすでに記述しているため、ここでは書籍（論文集及び単著）に関して記述する。

- ミツヨ・ワダ・マルシアーノ編著『〈ポスト3.11〉メディア言説再考』法政大学出版局、2019年
- ミツヨ・ワダ・マルシアーノ単著『NO NUKES: 〈ポスト3.11〉映画の力・アートの力』名古屋大学出版会（2021年）
- Mitsuyo Wada-Marciano, *Japanese Filmmakers in the Wake of Fukushima: Perspectives on Nuclear Disasters* (Amsterdam: Amsterdam University Press, 2022年出版予定)

今後の見通し

本研究プロジェクト「環境映画・映像メディア分析からフクシマ以後の日本文化の変容を読み解く研究」では、2011年以降の日本におけるドキュメンタリー映画を中心に分析を行った。今後は、視野のスコープを拡げながら、「ドキュメンタリー映画」と「環境」との交差に注目したい。対象とする映像作品の幅を、2011年以前、及び日本以外の地域、特に東アジアで制作された作品へと拡張したいと思う。

具体的には、東京千代田区九段南にある記録映画保存センターに通いながら、1955 年以來存続している桜映画社という制作会社の作品を見ていきたい。コロナ禍の影響で東アジアの国々にリサーチに行くことはいまだ難しいため、助成金の残額に関しては、そのための国内旅費と映画観覧料、映像購入料等に充てたい。